

矢沢小5年1組 みんなの願いがなかった!



人間が手を加えた改良魚で、とても生命力が強いそうです。

その後、子供たちは、クロメダカをはじめ絶滅危惧種について、またいたち川の生き物や植物、歴史について調べたいという新たな課題が出てきて、総合的学習へと発展していきました。そして、いたち川にヒメダカを放流してはいけないということが、わかりました。

もうひとつの願い「メダカの保護センターを作りたい。」これが、このたびかかないました。

今まで飼育小屋の隣にあって、放置されていた池?に、和久井さんのご指導のもと、土を入れ、みんなで足で何回も踏み込みました。どろんこで足がぬげなくて、ころびそうになりながらも、楽しくやりました。そして固めた後、サンカクイやセキショウ、ホテイアオイなどの水草を植えました。完成したとき、「ありがとう」とお礼を言うかのように、トンボが一匹やってきました。感動的でした。

みんなで、名前も「水辺の生き物アイランド」と新しくつけました。これから、メダカ、アメンボ、ゲンゴロウなど生き物を入れるつもりです。そして、いつまでも自然とふれあえる場としていきたいです。

(矢沢小学校)

一学期、理科「メダカの産卵と成長」の単元で、メダカを一人2匹(オスとメス)ペットボトルで飼い始めたところ、卵を生み、どんどん孵化していきました。さて、この増えたメダカをどうしようということになり、みんなで話し合った結果、「いたち川に放流したい。」「矢沢小メダカ保護センターを作りたい。」という考えが出てきました。

いたち川に放流してよいかどうか、早速、クラスの代表が、栄土木事務所の和久井さんに電話で尋ねたところ、「クロメダカは、よいけれど、ヒメダカは無理です。」というお返事でした。ヒメダカは、

飯島せせらぎ愛護会より

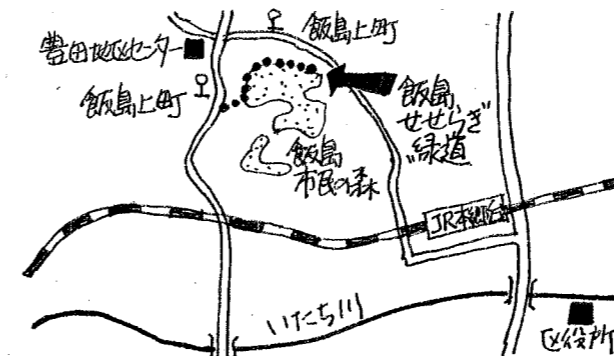
飯島せせらぎ緑道は当初、通路路として設置要望して参りました。また付近の住民より水がくさくて等の苦情があり、町内として改善方、要望して参りました。関係行政機関のご尽力により立派に完成しました。

せせらぎ緑道は約 600m 飯島市民の森のふもとを流れ、上流には清水出合いの滝があります。ここから出る水に沿って自然石、太鼓橋、隣接の飛び石等水辺の遊び場としてあります。市民の森と一体となって、自然豊かな緑道として、飯島町の新たな名所になっております。

平成11年3月に完成し、7月に飯島せせらぎ愛護会が発足しました。同10月23日に飯島上町商店会と合同で緑道開通式を行いました。

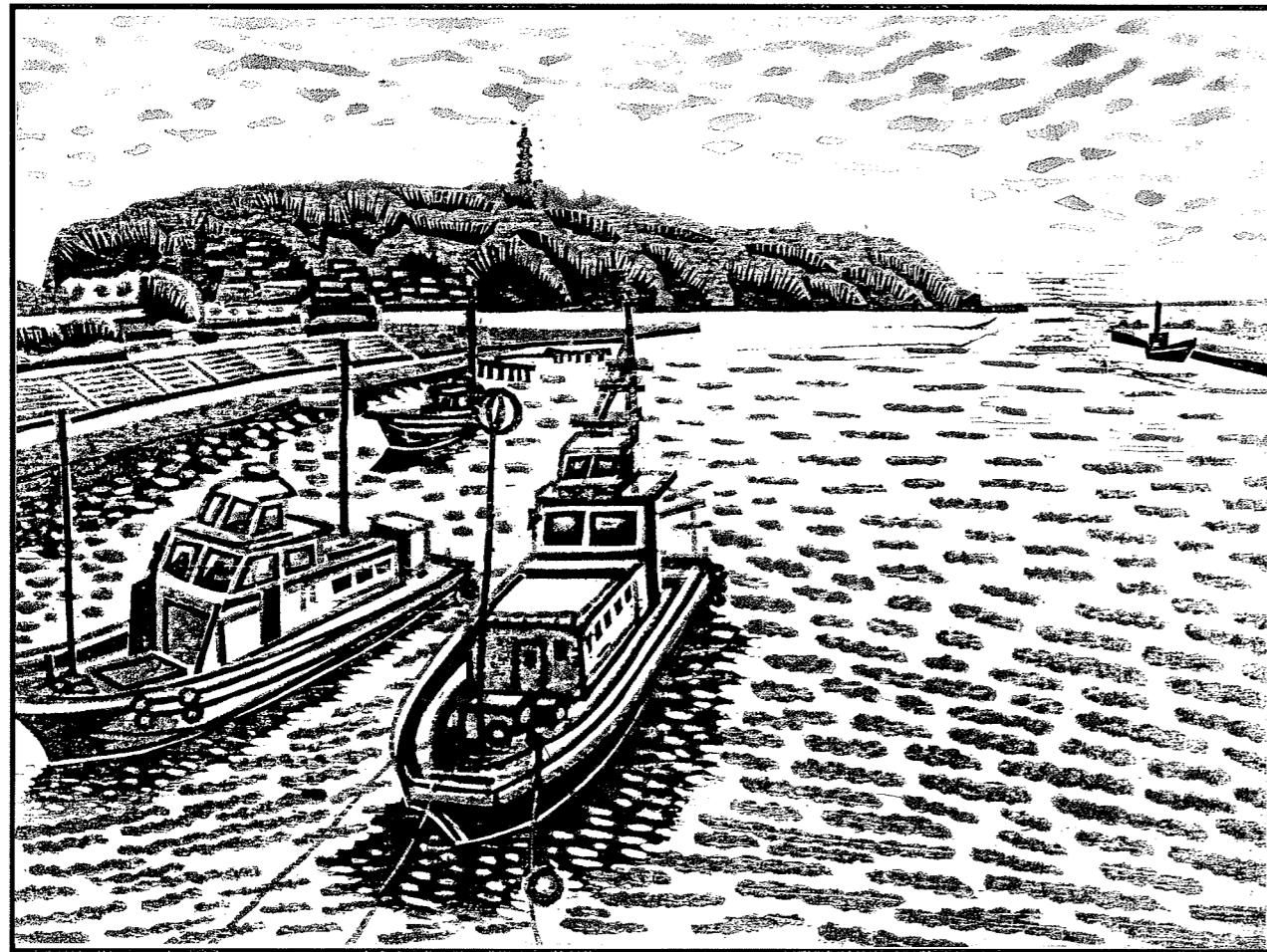
愛護会として会員は50名あまりで、2~3カ月に一回草取りなどを実施しております。また年一回、商店会と合同で緑道祭りを実施しております。

(飯島泰男)



いたちかわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 秋号



版画 宗森英夫

いたち川と海・地球環境

日本のほとんどの川は、海とつながっている。いたち川も笠間川と柏尾川と合流し、藤沢市の川名で境川と合流して、江ノ島の側の片瀬で相模湾に注いでいる。片瀬海岸は、毎年、夏になると必ずテレビで報道されるように、全国有数の海水浴客で賑わう場所である。最盛期には、日に数十万の人が押し寄せる。したがって、「かながわ海岸美化財団」が毎年シーズン前にブルドーザーを使ったり、シーズン中はボランティアが海岸清掃を行っている。そのゴミの量は、毎年、約五〇トンにもなる。

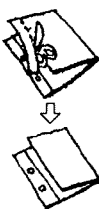
これらのゴミの八〜九割は、川から流されてきたもので、いたち川からの分もトラック何十台分が含まれている。水辺愛護会の人たちが、熱心に、毎月、川掃除をしているが、ゴミの量は追いつかない。ゴミ・ゼロ作戦にはほど遠い。

これらのゴミは、海浜に打ち上げられるだけでなく、海底にも沈殿していく。ヘドロの沈殿によって漁業に大きな被害がでたり、渡り鳥の餌場がなくなったりしている。死んだ海亀を解剖したら、胃の中に「ニールがいつはいつまっていた」という例が数多く報告されている。おそろしくミズクラゲと間違えて食べたのであろうといわれている。人間の不注意が、他の生き物を死に追いやっていくのです。このようなことは、イルカやアザラシなど多くの生き物に影響を及ぼしています。

「川をきれいにする」には「海をきれいにする」ことが大切です。

切りとり線

この部分を切り取ってファイルすると便利です。



発行年月 2001年11月

(通刊 15号)

発行：狹川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

昭和20年代～30年代の
農業最盛期における
いたち川流域の水田・畑耕作状況
(その2)

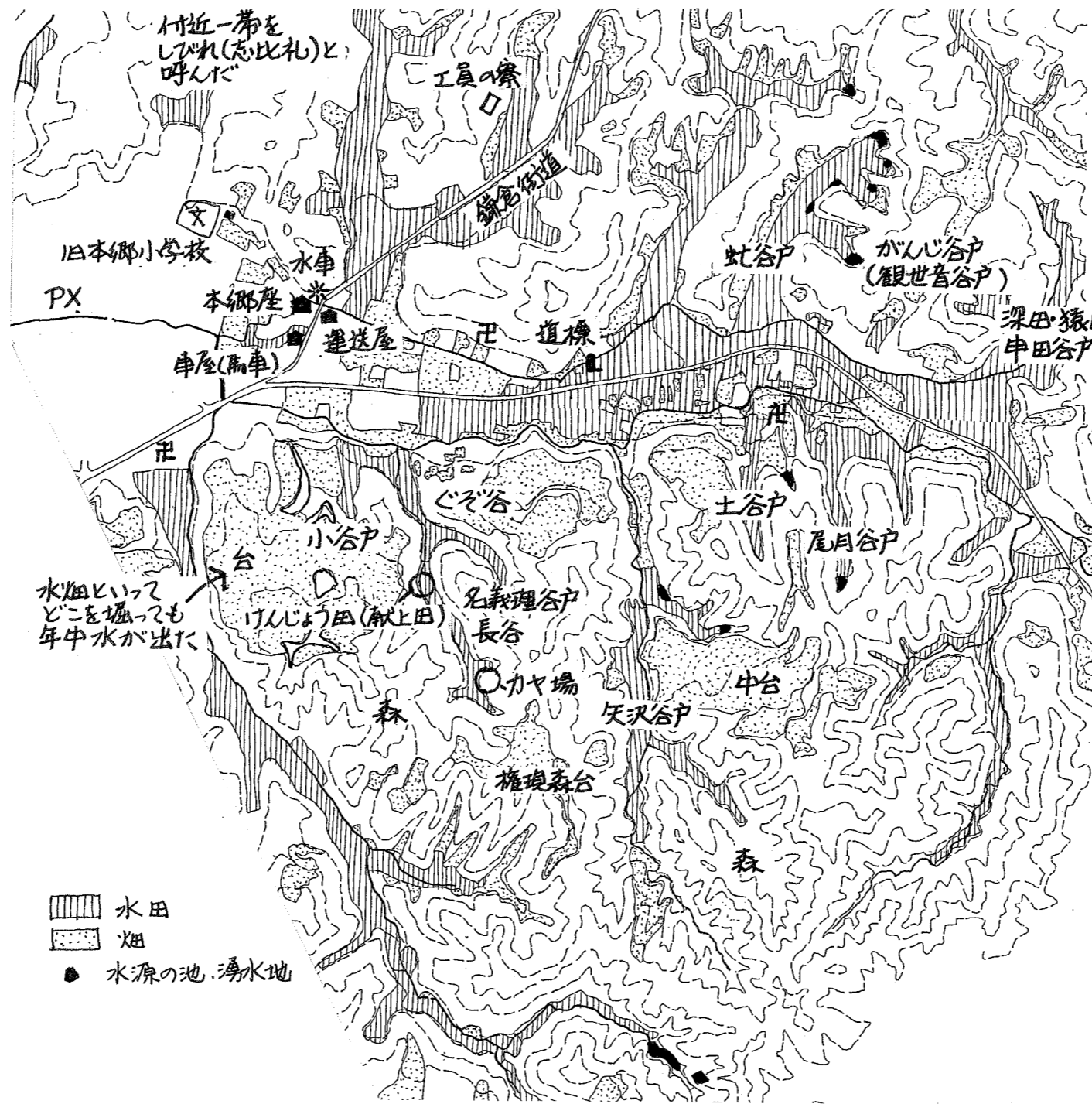
前号で上郷地区にはたくさんの田んぼや畑があり、見渡す限りの豊富な森林があった事に驚かれたことでしょう。今回は、中流域の田んぼ、畑と町の様子を紹介します。

現在、舞岡上郷線の道路が、山手学院の下の山すその所で大きくカーブしていますが、このあたりは「深田、猿田、申田谷戸」と呼ばれていました。

山すその道路の真下には、7～9世紀に実際に製鉄がおこなわれた跡があり、調査の後、埋め戻されています。付近の田んぼ、畑からは、かつての名残りとどめる鉞さいが出てくるそうです。

バス停「山手学院入口」から山手学院に上るあたりは、かつては「観世音谷戸」と書いて「ガンジヤト」と地域の人々は呼んでいたそうです。かつては谷戸毎に由緒ある名前が付いていて、古代への夢を一層深めるのに大いに役立ったことと思います。

(みなもと・源)



公田町周辺の昔(40年前ぐらい)の話を、白井さん(ニーズランド社長)に伺いました。

今の子供とは違い、家の仕事が全てを優先していました。弟や妹の面倒を見ながら薪集めや家周りの掃除は日課で、勉強は家ではあまりしませんでした。

特にこの地区は、山の上(公田団地周辺を台・「だい」または「でい」と言っていた。)まで稲作をおこない、畑は家の周辺で家族で食べる分だけの耕作でした。

田植え、稲刈りの頃を農繁期と言って、小学校、中学校は一週間ぐらい休みで、農業の手伝いをさせられました。作業時間は日の出から日の入りまでで(百姓時間と言っていた。)、休憩は、十時、昼、三時の3回、お茶や食事を届けるのは子供の仕事でした。当時はお菓子など無いので、サツマイモの団子、カッチンボシ(乾燥イモ)やサトイモの煮付け(お煮しめに似たもの)、お新香とおにぎりでした。子供にとっては、茶湯、食器と食べ物を持って山坂を一時間近く大変な思いで運んだことを記憶しています。

“夜なべ”(夜に仕事をする)は、ムシ口編み、縄ない、竹カゴ編みなどを夜遅くまでしました。女の方は、衣服の針仕事に専念していたようです。(水人子)

リレートークその十四
アイガモ 黒ちゃん

平成八年六月下旬、警察学校橋下の水辺に黒と白の混じった見慣れぬ三羽の水鳥が、身を寄せ合っていた。恐る恐る水に入り遠慮がちに泳ぐ姿はいじらしかったが、一年もすると以前の心配は嘘のように一番威張っている感じになった。いろいろ調べてもわからず、アイガモという事にして「黒ちゃん」と呼ぶことにした。一昨年ごろより雌と思われる一羽が抱卵をするようになったが、途中で放棄?、カルガモ母子を追いかけ回したり突いたり意地悪をする。

昨年、とうとう事件が起きた。かえったばかりのヒナ五羽を連れて川に入ったカルガモ母子を、滑るように近づいてきた三羽が一斉に襲い、母鳥や見ている人たちのなすすべもないアツという間に惨劇は終わっていた。なんと、はかない命でしよう。何事もなかったように小さなヒナを浮かべた川は静かに流れていく。このことを知って以来、私は黒ちゃんを「ギャング」と呼び、憎しみさえ感じるようになった。

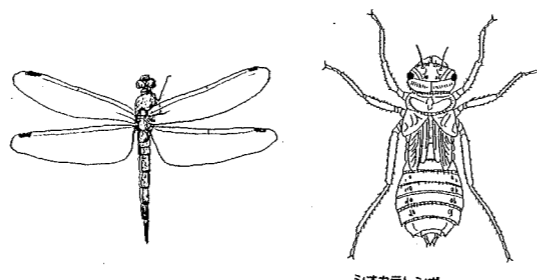
その「ギャング」に今年五月、九羽のヒナが孵った。しかしガラスに八羽やられ、残る一羽は優しい人に助け上げられたものの、やはり絶命。

七月には、一羽のヒナをつれた「ギャング」一家が見られるようになった。その後のヒナの成長はめざましく、一時はみ出していた一羽も戻り、五羽はいつも行動を共にしている。

台風の水で「白ちゃん」や「アイガモちゃん」達が姿を消した中、戻ってきたのは「ギャング」達だけ。飛べない「白ちゃん」達は流され、あるいは死んでしまい、一組戻ったのみ。

思うに「ギャング」達は縄張りの意識がとても強い種なのだろう。失いつつある家族の姿が、ここにはあるのかもしれない。…反省。(あひる)

いたち川周辺の生き物④
肉食で種多様なトンボの幼虫ヤマト



よく知られているように、トンボの幼虫ヤマトは水中で生活しています。一口にヤマトといっても、トンボの種類によって、その形や生活は様々です。オニヤンマなどのように流れがあるところを好むタイプやシオカラトンボのように池や水田など流れがないところを好むタイプなど生活環境はかなりの違いがあります。

形も種類によって全部ちがいますが、ヤンマ類は胸長、イトトンボ類は細長、普通のトンボ類は親の成虫はスマートなのに幼虫はずんずんしています。

全てのヤマトに共通しているのは肉食であるということです。メダカなどの小魚や稚魚を襲って食べることもありますが、他の水生昆虫や「ミジンコ」などの動物性プランクトンを餌にしています。水生植物の根など餌が豊富にあるところは勿論ですが、学校のプールなど水を入れてあるだけのような所にも産卵して、風で舞い込んだ落ち葉などに発生するプランクトンを餌にして成長します。夏が近づいてプールの水を抜いて掃除をするときヤマトが何十匹もいて、びっくらすることもあります。以前、テレビで放送していましたが、大都会のビルの屋上にある水槽にも産卵していました。

成虫のトンボになれば蚊などの小昆虫を捕食しますから、トンボは一食、肉食で暮らすわけです。庄戸にある遊水池はトンボの天国で、この近辺ではもっとも多くの種類が見られるようです。(いも)